

前計画の前期の総括

(1) 経営目標

- 前計画（H28-R2）の前期末（R2末）における経営目標は、下表のとおりすべて達成した。

		【目標】					【実績】（単位：百万円）				
		前計画・前期					前計画・前期				
		H28	H29	H30	R1	R2	H28	H29	H30	R1	R2
経営目標①	現 預 金 残 高	3,842	3,810	3,728	3,704	3,775	4,390	4,828	4,785	5,552	5,045
経営目標②	企 業 債 残 高	22,170	21,716	21,134	20,940	20,685	21,543	20,492	19,217	17,930	16,647
経営目標③	当 年 度 純 利 益 (又 は 純 損 失)	84	968	893	796	921	550	1,470	1,630	1,580	1,298

目標項目	R2計画	R2実績	達成度	目標達成の主な原因
現預金残高	37.75 億円	50.45 億円	○	給水収益の上振れに加え、企業債の新規発行を行わなかったことに伴う企業債利息などの費用削減も相まったことによる。
企業債残高	206.85 億円	166.47 億円	○	現預金残高を考慮しつつ、H30以降3か年連続で企業債の新規発行を行わなかったことによる。
当年度純利益	+9.21 億円	+12.98 億円	○	現預金残高と同様に給水収益の上振れに加え、企業債の新規発行を行わなかったことに伴う企業債利息などの費用削減も相まったことによる。

(2) 施策目標

- 前計画の施策目標23項目の進捗状況を確認し、前期末時点において、目標どおりに進捗しているものが16項目、目標に向け概ね進捗しているものが2項目、目標を下回るものが5項目であった。
- うち、特筆すべきと考えられる項目とその要因等は下表のとおり。

施策目標		
安全	水安全計画の評価の実施率 水質基準不適合率 鉛製給水管残存戸数 鉛製給水管率	4項目
強靱	浄水場数 配水ブロックの構築数 浄水施設耐震化率 配水池耐震化率 管路の耐震化率 基幹管路の耐震化率 応急給水時の確保水量	7項目
持続	広報誌「パイプライン」の発行 お客様アンケート（需要家意識調査）の実施 パブリックコメントの実施 内部研修時間 外部研修時間 研究発表会等への年間論文投稿数 他水道事業体と共同で行う研修・訓練の年間開催回数 1年間の全施設の電力消費量 配水量 1 m ³ あたりの電力消費量 浄水汚泥の有効利用率 建設副産物のリサイクル率 有収率	12項目

主な未達成項目		目標	実績	未達成の要因等
強靱	配水ブロックの構築数（ブロック）	46	33	定期洗管業務等の他の既存業務が増加したことなどにより、目標を達成できなかったが、今後は、令和2年度に設立された大規模洗管等連絡調整会議を活用し、他課との連携を行うこと等により目標の達成に向けて取り組む。

※青字は現計画では設定しなかった目標

(3) 経営指標

- ・ 総務省経営比較分析表における経営指標10項目について、前計画の進捗状況を確認した結果、前期末目標に対する未達成項目は3項目あり、目標との乖離が大きいのは管路更新率であった。
- ・ 類似団体の平均値に比べて劣っている項目は5項目あり、特に乖離が大きいのは流動比率及び管路更新率であった。

➡ (類似団体と比較しても) 管路の更新が進んでいない。

経営指標					
健全性・効率性	経常収支比率 流動比率 企業債残高対給水収益比率 料金回収率 給水原価 施設利用率 有収率	7項目			
	有形固定資産減価償却率 管路経年化率 管路更新率	3項目			

未達成項目		目標	実績	未達成の原因
老朽化	管路更新率	0.49%	0.20%	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により想定どおりに工事が進捗しなかったことなどによる。※これは全管路の更新に500年を要する計算となる。

類似団体平均値と乖離している指標		類似団体平均(R1)※1	実績(R2)	差分
健全性・効率性	流動比率※2	250.3%	186.05%	△64.0%
老朽化	管路更新率	0.73%	0.20%	△0.53%

※1 類似団体平均値は、公開されている最新値の令和元年度末である。

※2 総務省が一般的に必要なとしている100%は上回っている。